

これからの時代に求められる資質・能力を育むためのカリキュラム・マネジメントの在り方に関する調査研究

佐賀県武雄市の取組



人口：49,155人
小学校数：11校（分校3校）
児童数：2,834名
中学校数：5校
生徒数：1,226名
（平成30年4月）



武雄市教育委員会

市内3小学校での実践的な調査研究

授業時数確保のために

- 15分の短時間学習
- 夏季休業期間の短縮
- 学習時間割の工夫

授業数確保において、どのような組み合わせがより実践的であるかについての研究を行う

1 研究の概要

武雄市の小学校の現状

- 官民一体型学校「武雄花まる学園」等の取組
- 各学校毎に年間10日程度の土曜日等開校
- 新学習指導要領への対応（授業時数確保）が課題

2 調査研究の内容

○武雄市立朝日小学校

- 火・木曜日に月1回程度（年間4回）朝の時間
15分+45分の60分授業（3～6年）
- クラブ・委員会活動がない週に6時間目の授業
- 夏季休業中の開校日（6日間）の設定
（午前中3時間授業）

○武雄市立若木小学校

- ・毎週水曜日(ALT来校日)に、3～6年生は1時間ずつ外国語科・外国語活動を実施
- ・3・4年生は、外国語活動実施により減少した教科の授業を火曜日6校時に実施
- ・5・6年生はクラブ・委員会活動がない火曜日の6時間目に、外国語科(60分授業)を実施

「花まる英語」

- ・「Hi! Friends」をもとに独自で作成した教材
- ・4技能(聞く、読む、話す、書く)を取り入れた内容
- ・1回12分週2回 2週間で1単位時間

①Chants

ALTの発音を聞きながら単語や英文をリズムに乗って発声

○武雄市立東川登小学校

- ・土曜日や長期休業中に授業日の設定による授業時数確保(年間10日程度)
- ・朝の時間「花まるタイム」での英語の取組「花まる英語」(5, 6年生週2回)

確保した時間を使って

- 1～4年生では2週間に1時間の外国語活動、
- 5・6年生では10月から隔週1時間外国語科の授業の実施

②Phonics

英語の綴りと音の関係を学ぶ

③Sentence

カードを使って、英文の語順を学ぶ

④Comunication

例文を使って友だちと会話する

⑤Vocabulary

アルファベットや単語、英文を書き写す

○3小学校の共通点

- ・年間行事の見直しによる授業時数の確保
(土曜日等開校を含む)

○3小学校の相違点

- ・1時間(45分授業)の固定化(若木小学校)
- ・短時間授業による授業時数の確保
60分授業:朝日小学校、若木小学校
朝の短時間授業:東川登小学校

3 研究を進めるにあたり

- ・カリキュラム・マネジメント検討会議
7月、3月開催
- ・担当者会議
10月開催
実践校の実践報告、情報交換
学識経験者、県教育委員会による指導助言

カリキュラム・マネジメント検討会議(7月)での 指導助言

- ・外国語活動、外国語科でも「主体的・対話的で深い学び」の実現が大事。
- ・45分の1単位時間の学習と短時間学習とをどのようにつなげていくかがポイントとなる。
- ・学習の振り返りの時間を確実に確保。
- ・評価の中に4技能の観点が入ってくる。
- ・何を学ばせるのかを指導者が明確に持つておくことが必要。
- ・「Hi! Friendsプラス」の積極的な活用。

カリキュラム・マネジメント検討会議(3月)での 指導助言

- ・指導案(略案)がデータベースであれば、指導者は安心であり、活用できる。
- ・単元目標と4技能の目標を設定するとよい。
- ・45+15の60分授業の3回実施で、4コマ分確保できるが、内容も4コマ分を指導しなければ未履修が生じる。
- ・本調査研究には、時間的課題と指導内容的課題がある。

4 成果と課題

(子供の視点から)

- 英語にふれる機会が増えたことで関心意欲が高まり、英語によるコミュニケーションに積極的に取り組む児童が増えた。
- 「話す」「聞く」「読む」「書く」の4技能の修得に難しさを感じる児童が見られた。楽しみながら4技能を身につけるような指導方法の工夫が必要である。
- 60分授業は、集中力が持続しない児童も見られる。発達段階や学習内容に応じて60分授業を設定する必要がある。

(地域との関係の視点から)

- 「花まる英語」に地域の方が支援。

(設置者(教育委員会など)の視点から)

- 外国語科の指導について教職員の苦手意識を軽減するために、県教委や研究校での発表会等への参加を奨励。
- 授業時数の確保について夏季休業中の在り方を検討。

(教職員の負担の視点, 校務運営の視点から)

- 土曜日等開校日の実施が、授業時数確保につながった。
- 夏季休業中に行っていた補充学習等の時間の確保。
- 高学年と低学年の授業時数の差による負担感の差違。

5 今年度の調査研究の方向性

○時間的課題について

- ・児童にとって負担感や戸惑いが少ない授業時間の設定。

○指導内容的課題について

- ・単元の指導内容が網羅できる短時間授業や60分授業の設定の在り方。